

2014年度事業計画(案)
自:2014年1月1日 至:2014年12月31日

特定非営利活動法人 視覚障害者パソコンアシストネットワーク

1. 活動方針

2014年度は、SPANにとって本当に正念場の年となりそうです。

2013年度に、創立以来初めての赤字決算となりましたが、2014年度の予算では、赤字幅が拡大してしまいました。

これは、TEPIAという大口の事業受託先がなくなったことが最大の要因ですが、それに代わる収益確保の方策が見いだせなかったことも大きいと思います。

ただ、6年間のTEPIAの事業を通して多くの会員のみなさんの努力で積み重ねてきたノウハウは、SPANにとってかけがえのない財産となりましたし、全国の団体とのネットワークが構築できたことは大きな収穫でした。

そうした実績を踏まえて、2012年度から始めた夜間講座・土曜講座は、多くのユーザーから支持されており、すっかりSPANのメインの活動となってきています。

それに加えて、公益財団法人 東京しごと財団から受託している在職者訓練は、2013年度に最初の訓練を実施すると、次々に依頼が入り、これまた、SPANの活動の中で大きなウエイトを占めるようになりました。

さらに、主として在職中の個人からの講座申込みも増えており、就労支援の分野でのSPANの存在が着実に社会の中で認知されてきていると感じています。

こうした状況から、2013年度に計画した「視覚障害者への職業教育に取り組む」という目標には、少しずつ近づいていると思うので、こうした活動には引き続き力を入れていきたいと考えています。

もちろん、これらの事業は、大口の受託先と比較して収益は大きくありませんが、一つ一つの活動に丁寧に取り組むことで、必ず将来につながると考えています。

しかし、赤字体質をそのまま放置しておくわけにはいきませんので、2014年度には、以下の対策を講じてまいります。

- (1)新規事業の開拓
- (2)寄付金・助成金の確保
- (3)経費の効率的な運用

新規事業では、企業に在籍する視覚障害者を対象とした社員研修を受託するための活動を、啓発ビデオの制作や、ほかの団体と連携しながら進めていくほか、SPANがこれまで培ってきたノウハウを生かした立体コピー教材の制作などを行って外部に提供していきます。

また、広報誌の制作や、SPANのWebサイトをリニューアルするなどして、SPANの活動をより広く社会に発信して寄付金の確保を目指すほか、助成金の申請も積極的に行っていきます。

そして、各講座の受講料の見直しを行って収入の増加を図るほか、経費の支出については、無駄を省き、出来る限り効率的な運用に努めています。

このほか、これまで続けてきたインストラクター養成講座やメールマガジンによる情報提供といった活動は、SPANのベースとなるものですので、これからも大切にしていきたいと考えています。

さらに、Windows8やoffice2013のマニュアル制作を行った上で、その内容をWebで広く公開していくほか、10年以上にわたり積み重ねてきた遠隔教育のノウハウを整理した上で、Webで公開しながら、実際の講座も可能な限り実施していきます。

会員向けの活動としては、昨年は「会員勉強会」「サポート会員勉強会」「SPANサロン」と、テーマごとに開催していた活動を「SPANサロン」として一本化し、2月を除いた毎月開催していきます。

内容は、パソコンやタブレットなどを含むICT分野にとどまらず、会員のみなさんが気軽に集まれる場となるようなものにできればと思っています。もちろん、会員向けに毎月発行している「SPANニュース」も引き続きお届けします。

このように、2014年度はSPANにとって厳しい年となりそうですが、逆にいうと、こうした試練をチャンスと捉えていければと考えています。

ただ、これらの活動を進めるためには会員のみなさんのお力が不可欠です。ぜひ、SPANの目標である「一人でも多くの視覚障害者にICTを活用してもらう」という理念に向かって、一緒に活動していきましょう。

2. 活動計画

2014年度には以下の活動を計画しています。

(別紙「2014年度活動計画」参照)